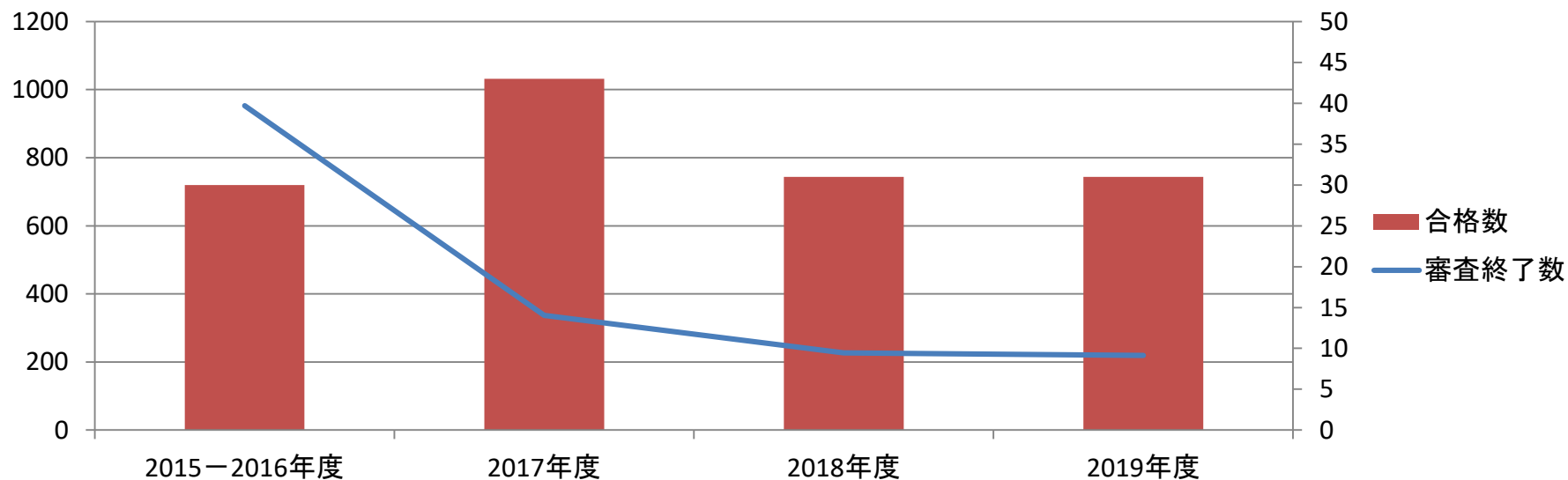


学術部報告
MTDLP事例登録2019年度
登録状況
審査・合格事例について

○2019年度登録・審査・合格内訳

1. 年度別審査数と合格数(率)

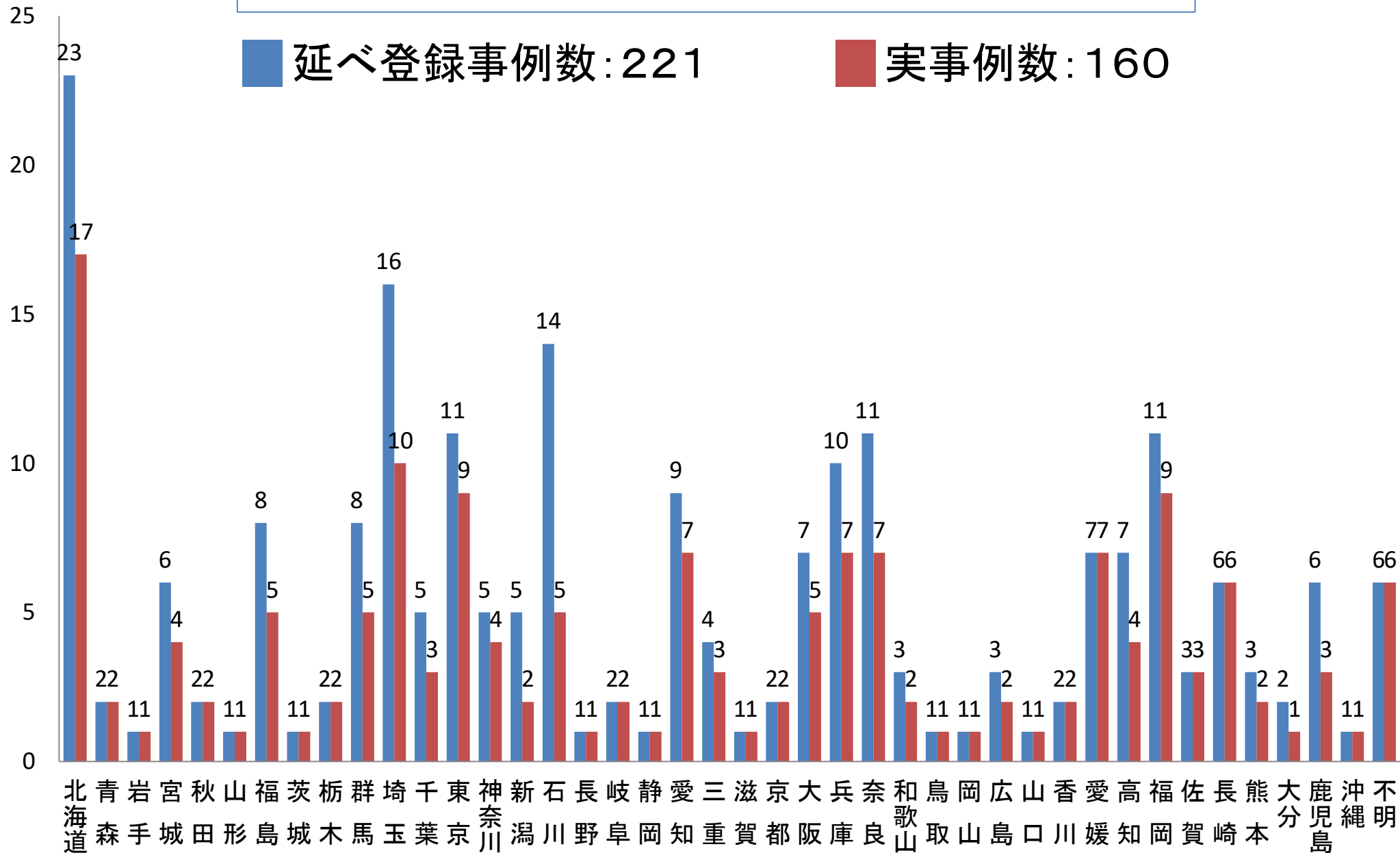
	審査終了数	合格数	合格率
2015—2016年度	953	30	3.15%
2017年度	337	43	12.76%
2018年度	227	31	13.66%
2019年度	219	31	14.29%
計	1736	135	



2. 2019年度 士会別登録事例数

■ 延べ登録事例数: 221

■ 実事例数: 160



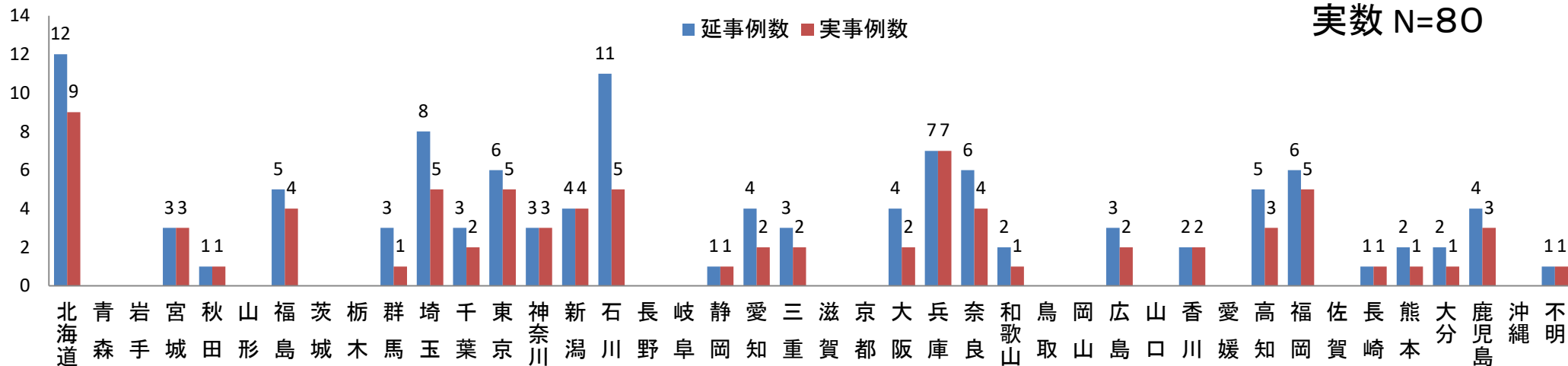
3. 士会別 新規登録事例数

N=109



4. 士会別 再登録事例数

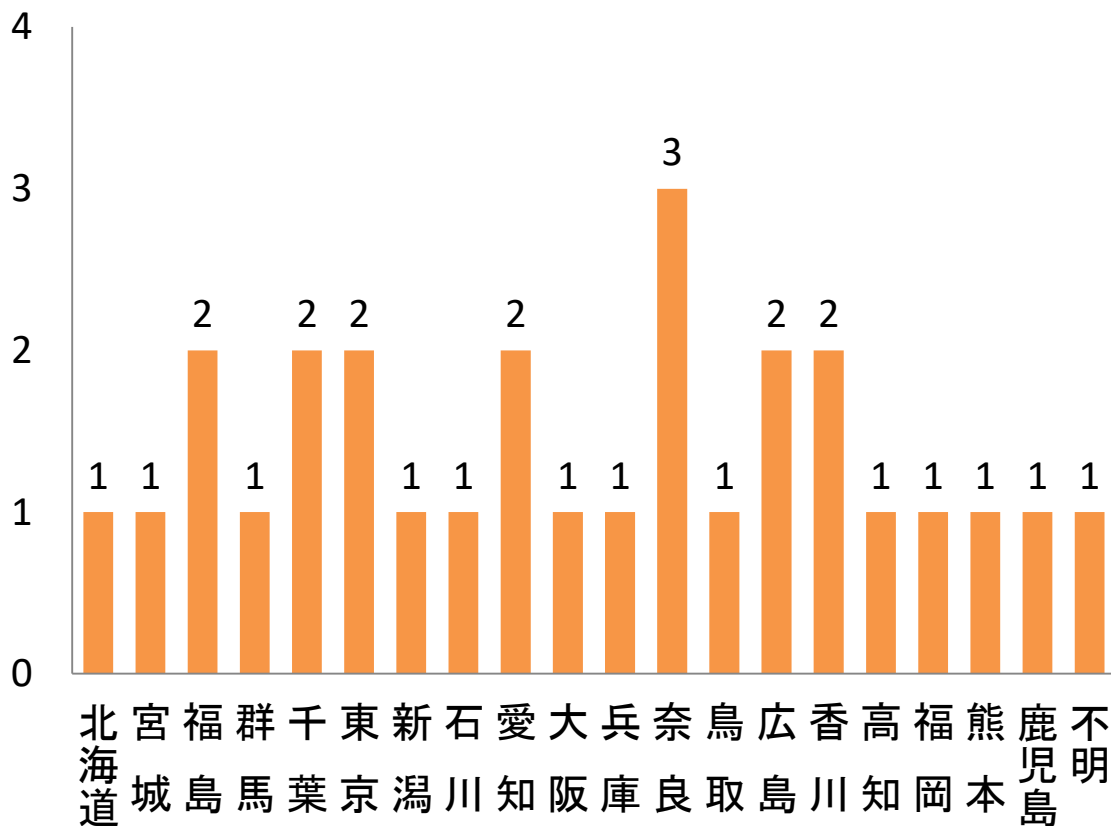
延数 N=112
実数 N=80



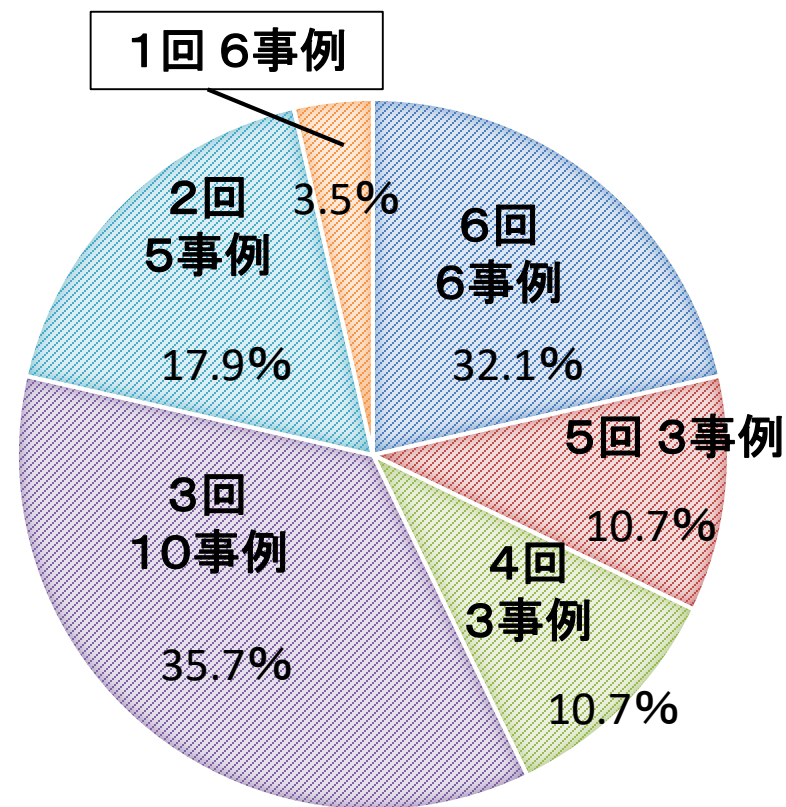
5. 合格事例

28事例

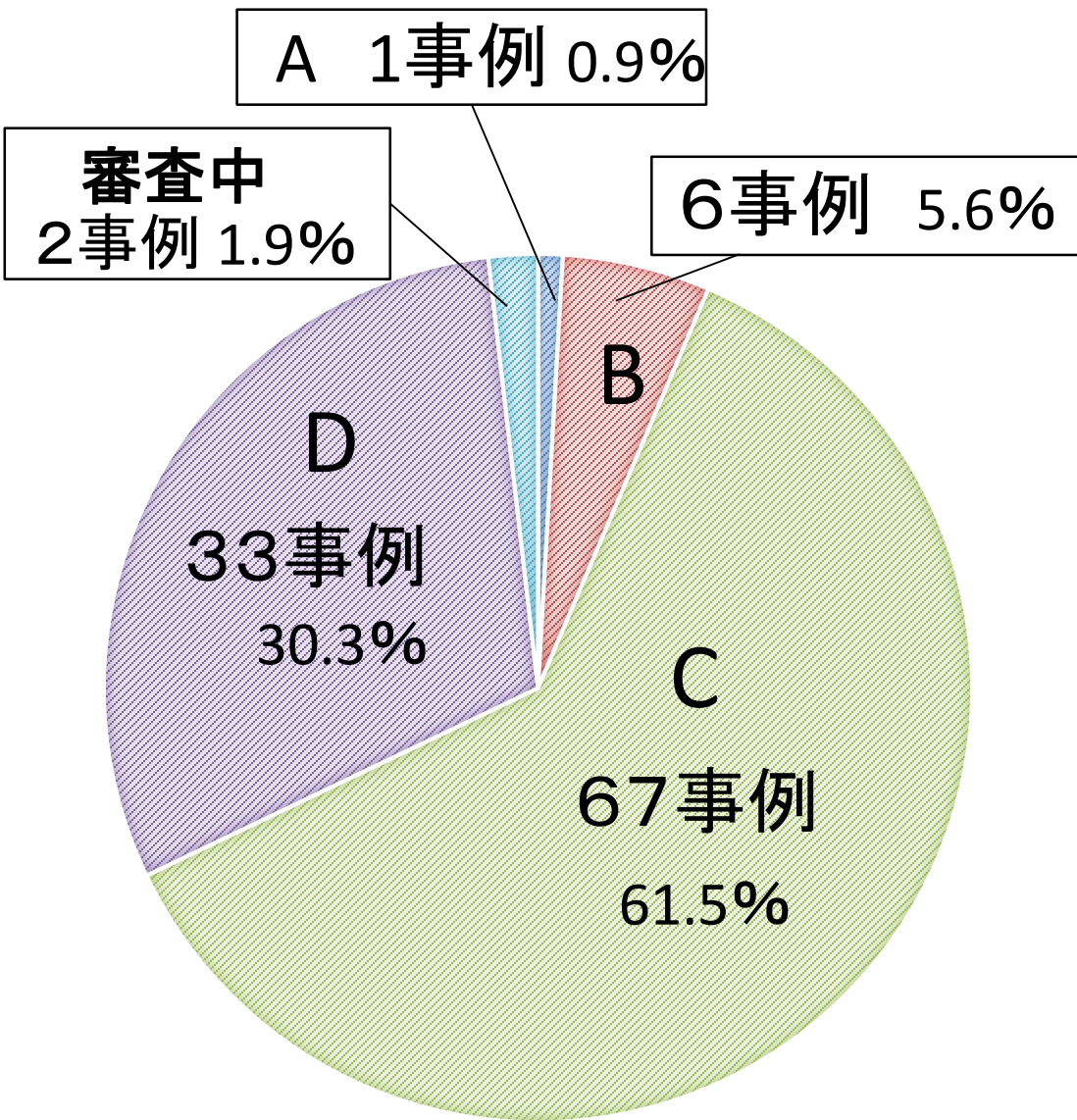
士会別合格事例数



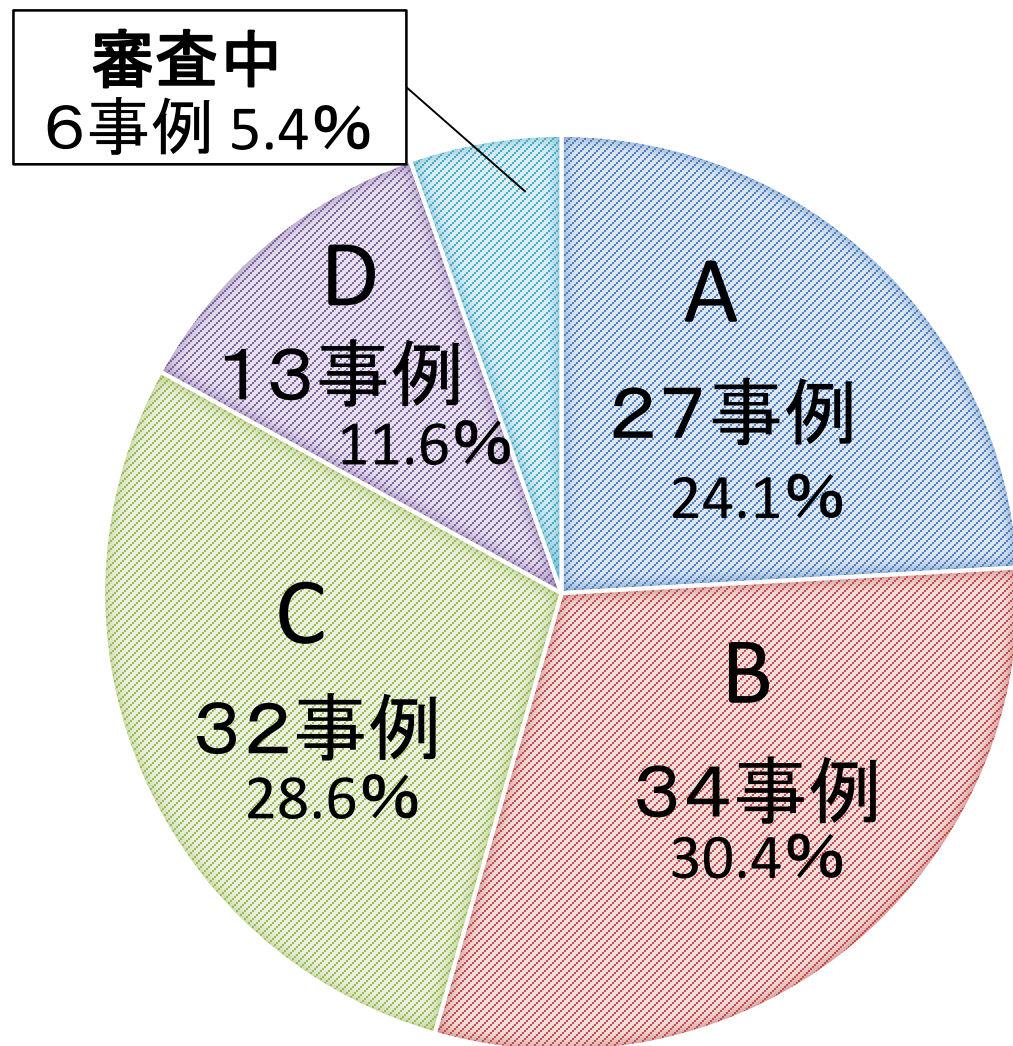
登録回数別合格事例数()



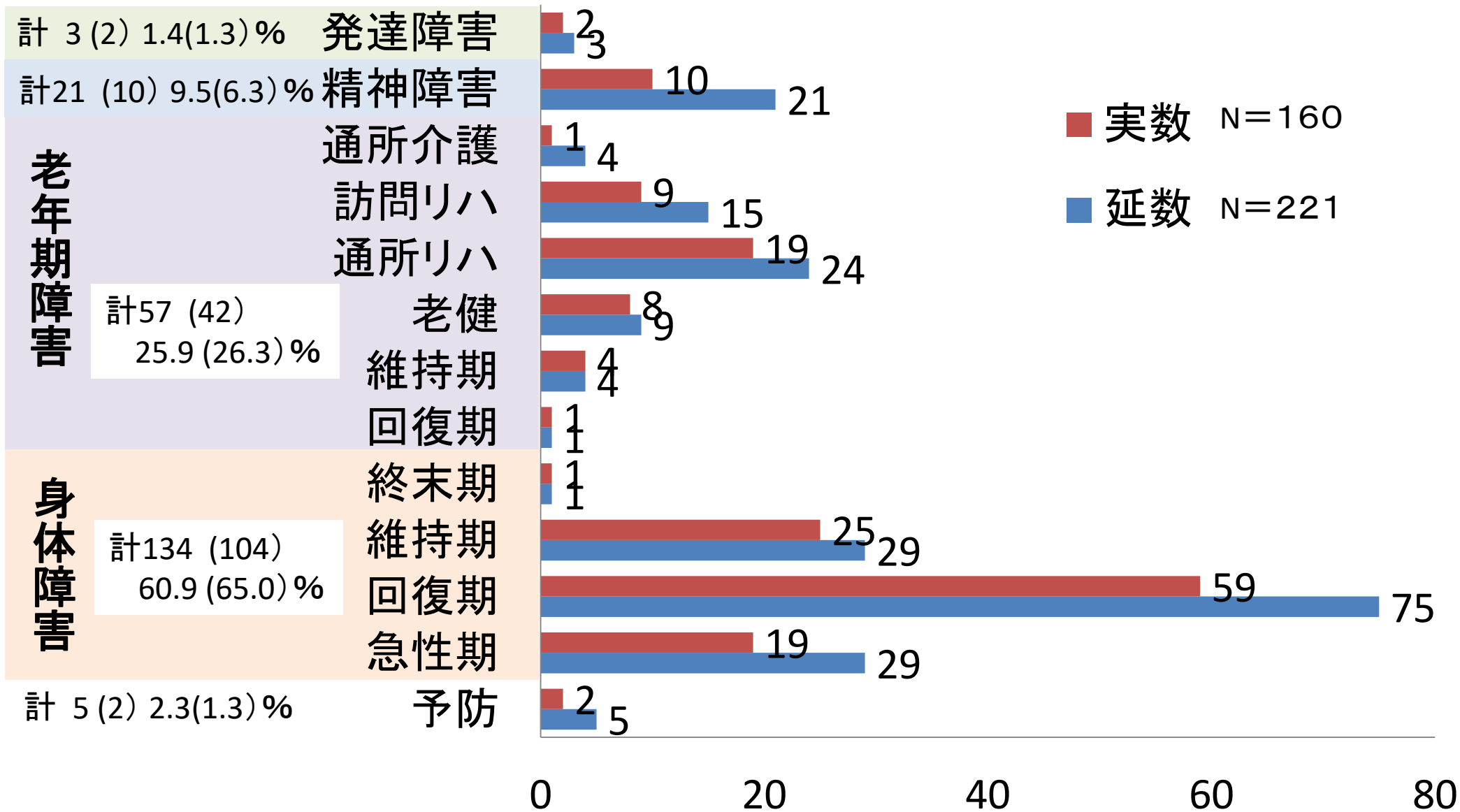
6. 初回時判定結果



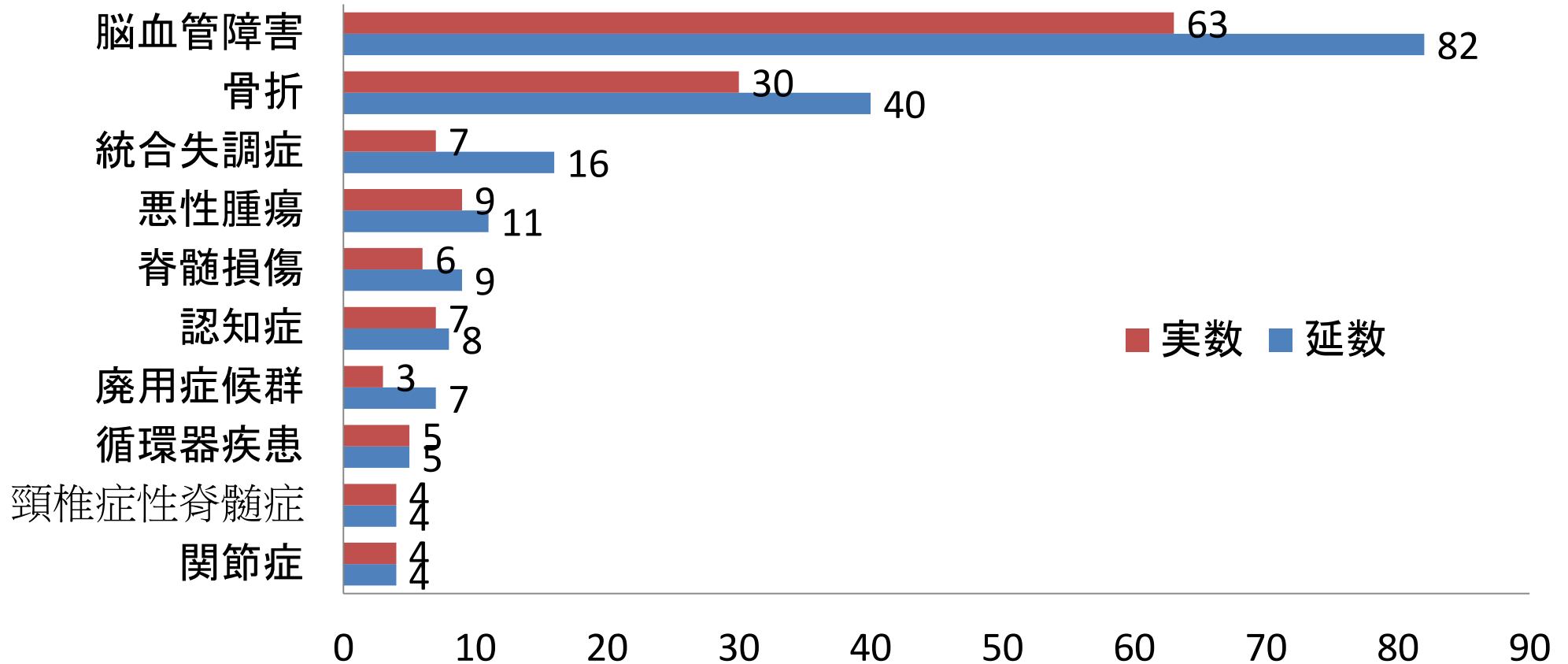
7. 再審査時判定結果



8. 領域別登録事例数



9. 疾患別登録事例数



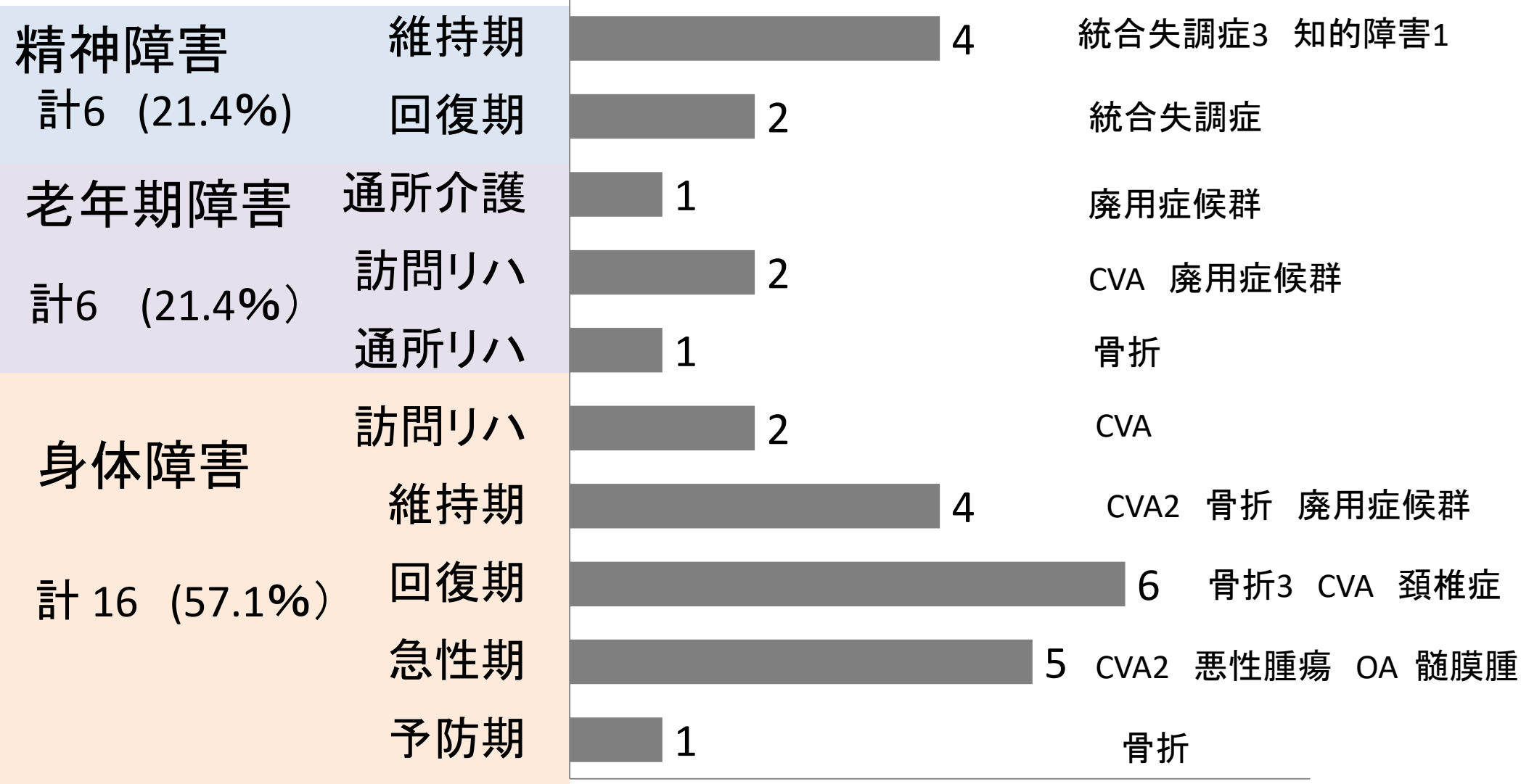
上記以外

頭部外傷、頸椎ヘルニア、脊柱管狭窄症、骨髄腫、
パーキンソン病、ギランバレー症候群、進行性核上性麻痺、多系統萎縮症、
消化器疾患、呼吸器疾患
加齢、情緒障害、躁病、うつ病、知的障害、自閉症、広汎性発達障害

○合格事例

1. 合格事例 領域別内訳

疾患



0 2 4 6 8

2. 精神科合格事例 1

疾患名	年齢	性別	関わりの場	インテーク	合意目標	結果	介入期間	介入の特徴
1 統合失調症	44	男性	精神科 訪問看護	ギャンブル以外の娯楽を人と楽しみ、浪費を減らしたい。 金銭管理が上手になり滞納金を返済したい、体重減少や体力をつけたい	金銭を毎月計画的に使用し、金銭管理支援事業を利用して滞納金を返済する。	金銭管理能力が向上し、本人の意向であった入院滞納金・生活保護費返戻金(滞納金)を返済することができた	7ヶ月	保健福祉サービスの利用見直しを実施し、OTが調整役を務めながら多職種で支援したことで、対象者の不安が軽減。滞納金が返金でき生活リズムが整った。
2 統合失調症	46	女性	入院 (1ヶ月目から実施)	前みたいに作業所へ通いながらアパートに退院したい	(2か月後) 自宅退院後、再入院せず、安定した生活を送るために入院前のように週5日間通所し、フルーツキャップ折りができるようになる。また、不安時は余暇活動を取り組み対処する。	疲労を起こさないための休憩に対する意識が芽生え、感情を言語表出できる機会が増え自宅退院となった。外来OTを継続しながら、以前通っていた作業所にも通所できるようになった。	2ヶ月	目標達成のためにケアチームを編成し、情報共有を密に行い統一した支援を実施。退院後の支援体制整備を協働して取り組めたことが功を奏した。
3 統合失調症	46	女性	精神科 訪問看護	「働いて子供におもちゃを買いたい」、「給料で服を買いたい」、「働いたら喫茶店行こう」	4か月以内に内職が出来る送迎付き就労継続支援B型事業所に就労する。	課題となっていた失禁もなくなり、おむつもはずせ、週2回の頻度で就労B型へ定期的に通えるようになった。子供のために働くという母親の役割を遂行できるようになった。	4ヶ月	4年間閉じこもり生活を送り現状維持の支援を受けていた対象者の「働きたい」という思いを聞き取り。試験通所へ向けて多職種で関わり、就労継続支援B型事業所に定期的に通え、同時に家庭での役割も実行できるようになった。

2. 精神科合格事例 2

疾患名	年齢	性別	関わりの方	インテーク	合意目標	結果	介入期間	介入の特徴
4 知的障害	43	女性	精神科 デイケア (10年以上 通所)	自分にあつた仕事がしたい	12カ月後、 やりがいを感じる業務 を行う就労継続支援 事業(B型)で週3~4 回働く	編みぐるみ作品などの作 成・販売を業務とする就労 継続支援事業所(B型)へ の福祉的就労に至つた	9カ月	状態が安定し、趣味などを有して地域生活が送れている対象者に対して、地域生活支援センターも含むケアチームで就労という目標を共有して協業。対象者が得意な作業(裁縫や編み物)を活かして事業所の選定し、自身のやりがいある業務に取り組めるようになった。これら取り組みは、地域生活における対象者の意味のある役割の創造にも繋がっている。
5 統合失調症	27	男性	医療観察 法病棟	希望の聴取が困難であつたが、丁寧な観察により料理本を見ていることを発見。それを機に「料理が好き。昔、調理とパン作りの仕事をしていました」と話してくれ、再びこれらの仕事に就く希望を尋ねると「ぜひしたい」と話した。	18カ月後、 調理や製パンを主な 仕事とする事業所に通 い、病状を悪化させず 安定した地域生活を 送る	希望する就労継続支援事業所(B型)で調理の仕事に就くことができた	18カ月	専門的多職種チーム(Multi-Disciplinary Team; 以下MDT)として、Dr・Ns・CP・PSWとの協業。対象者にとって意味のある生活行為(作業)であつた調理や製パンの仕事への復帰に焦点を当てた関りによって、対象者が主体的に治療に取り組み、良き地域生活の再開という結果に繋がつた。
6 統合失調症	21	男性	精神科 デイケア	大学に復学したい	9カ月後(翌年の新学期)、大学に復学し、注察感に襲われることなく、大学生生活を継続できる	新学期から大学に復学。大学の臨床心理士と週2回の面談し、合理的配慮を受けながら通学を継続	9カ月	